



トマト (ナス科)

基肥を少なくし、若苗は植えない。初期生育が旺盛にならないように気を付け果実と草勢のバランスを保つ。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地夏秋栽培													
<div style="text-align: center;"> トンネル  収穫  定植 </div>													

1) 適地

夏野菜ですが、比較的冷涼な気候に適します。適温は、20～25℃です。根が深く入るので排水がよく、耕土の深い肥沃なところに適します。

2) 品種

品種を選ぶ基準は、作りやすさ、病気に強いことですが、最近の品種は味や熟度を重視したり、ハウス栽培用に開発されていることから、必ずしもこうした条件を備えていません。露地栽培には、作りやすく栽培のしやすい品種を選ぶことがポイントです。

作りやすさで選ぶ品種：サターン、瑞栄、大型福寿

作りにくいが味や熟度で選ぶ品種：ホーム桃太郎

ミニトマト：ミニキャロル、ピコ、イエローペア

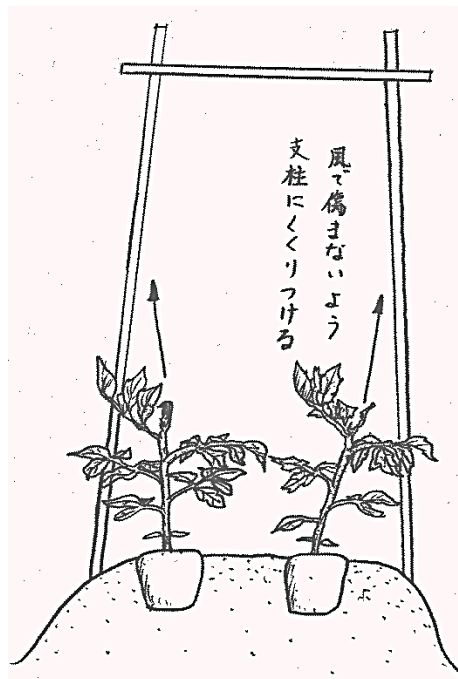
3) 作り方

【育苗】一般的に、市販の接ぎ木苗を購入します。セル苗もしくは7.5cm程度のポット苗で販売されています。セル苗の場合は本圃に直接植え、一旦10.5cmのポットに鉢上げし、第1花房の開花前まで育苗（二次育苗）することをお勧めします。

【圃場の準備】トマトやナスを4～5年作ったことのない場所を選びます。定植1か月前に1㎡当たり堆肥2kgと苦土石灰100g、BMようりん50gを、1週間前に緩効性肥料80gを全面に施し、深く耕し土とよく混ぜておきます。前作の肥料分が残っているような土であれば、基肥なしでもよいでしょう。基肥が少ない方が失敗は少なくなります。畝幅は1条植えて100cm、2条植えて150cmが目安です。

【定植】適期は、1段花房の最初の花が咲いた頃です。開花前の苗を植えると、草勢が強くなり1段目花房が着果せず流れてしまう事が多いので、若苗を購入したときは、少し大きなポリポットに鉢上げし、花が咲いてから植えます。トマトは、1段花房と同じ方向に上位花房が出るので、通路方向に第一花房をむけて植えます。

【整枝・誘引・摘果】わき芽は取り遅れると主枝の



定植の方法

伸びが悪く、病気の原因にもなります。こまめに摘み取り1本仕立てにします。この時、ハサミ等を使うと、ウイルス病が伝染する恐れがありますので、ウイルス病の疑いのある場合は最後に整枝します。ハサミはその都度よく洗っておきましょう。晴れた日の午前中に行うのがよいでしょう。摘芯は、6～7段花房の花が咲いたら、花房上2枚の葉を残して止めます。1つの花房に多くの実がついたときは、ピンポン玉の大きさ位の時に大きな形のよいものを4～5個残します。ミニトマトの整枝は必ずしも1本仕立てでなく2本でもよいでしょう。1本仕立ての場合は斜めに誘引し横に伸ばす方法をとると長期間収穫できます。

【追肥】1回目の追肥は1段果房がピンポン玉位になった時に圃場1m²当たり20gの高度化成肥料を穴肥します。2回目は5段果房の開花時に30gを、3回目は7段花房の開花時に30gを追肥します。追肥量は草勢の強弱により、適宜変更します。葉が内側に巻き込んだ状態となれば肥料が多すぎるので追肥は行わないでおきましょう。

【敷きワラ・灌水】雑草の発生と土が固まるのを防ぐために敷きワラを行います。梅雨明け後は、地温を下げ、乾燥を防ぐため敷きワラを厚くします。灌水は、果実が肥大するときに特に必要になります。夏期は株元への灌水より畝間灌水が中心となります。日中を避け、4～5日毎に灌水するとよいでしょう。

【ホルモン剤処理】第1花房の着果を確実にするためにホルモン剤の処理をします。トマトトーンの希釈液を、花房当たり2～3花開花した時にかけます。花房を手のひらで挟み、生長点に液がかからないようにして1回噴霧します。生長点にかかると生育異常が起こりますし、1つの花に2回以上かかると空洞果ができます。希釈液の中に食紅を入れ、ホルモン処理した花房がどれかわかるようにしておくといよいでしょう。第2花房以上についても、確実に着果させるためにはホルモン剤処理を行う方がよいでしょう。



ホルモン剤は花房だけにかか
るようにする

【生理障害】尻ぐされ果：果実の尻が黒くなって腐ります。カルシウムの欠乏が原因ですが土の中にカルシウムがあっても乾燥等によって発生します。露地トマトの上位果房に発生する代表的な生理障害です。深耕や堆肥の施用による土づくりと乾燥させないことが最も効果が高い防止方法です。

4) 病害虫防除

梅雨時に疫病が発生します。定期的に殺菌剤を散布し、発生予防に努めます。また、高温期には株が急にしおれ、数日間で枯死する青枯病も発生します。株ごと抜き取って処分し、翌年はナス科作物（ナス、ピーマン等）の植え付けを見合わせます。害虫では、アブラムシ、アザミウマ類、ハモグリバエ類、タバコガ、ハスモンヨトウなどが発生しますので、被害を確認したら防除します。



収穫した果実